

# はじめに

伊藤忠記念財団は1974年の設立以来、子ども文庫助成事業を通して青少年の読書環境の整備に努めてまいりました。2010年、「すべての子どもたちに読書の喜びを」という新しい大きなテーマのもと、障害があるために紙の本では読むことが難しいお子さんへの読書支援を目的に、電子図書普及事業部を新設しました。立ち上げのきっかけは、視覚障害がある子どもたちの教科書が不足しているという報道です。調べていくうちに、紙の本では読むことに障害があるのは、視覚障害だけではないこと、児童書のバリアフリー資料がほとんどないことが分かりました。そこで様々な読みに困難をもたらす原因を解消する媒体として、電子図書の国際規格の一つであるマルチメディアDAISY図書の製作、配布を行うことにしました。

まずは、出版社を回り事業説明をし、協力を求めることから始めました。幸いにして5社からご理解を頂くことができ、2011年3月に第1回目の配布（31作品 1135団体）を行いました。しかし、初めて編集した電子図書には予期せぬさまざまな問題があり、図書館団体と著作者団体それぞれから呼び出され、お説教を受けました。ある特別支援学校からは「利用しにくく、忙しい教育現場に送られても迷惑なだけだ」というアンケートまで頂戴しました。

その後、皆様からのご意見を下に、自動起動システムの付加、書影ポスターの配布、オリジナル作品（Ver.BLUE）の提供など毎年改善を加えてまいりました。また、都道府県立図書館に呼びかけ、協同で「読書バリアフリー研究会」を開催し、障害のある子どもたちへ読書支援ができる人材の育成を始めました。現在では出版社のご協力も22社となり、わいわい文庫と名付けたマルチメディアDAISYの作品数は今回で505作品、2018年度の配布団体数は1295団体（1月末）まで伸びました。読書バリアフリー研究会は、37都道府県で開催し、のべ2,675人にご参加を頂いています。

2018年度のトピックは、普通学校が特別支援学校を抜いてわいわい文庫の配布先トップになったことです。特別支援学級や学習障害など普通学級に学ぶ子どもたちへの有効性が認められてきたようです。また、ホームページをリニューアルし、わいわい文庫の検索システムを新設しました。巻末のページに案内を記しましたので、ぜひご利用を頂き、ご意見をお願い申し上げます。

利用者の皆様から、子どもたちの多様な興味に応える、関心を広げていくために、バランスよく作品を増やしていくことが求められています。また先生方からは、わいわい文庫ファンの子どもの卒業後の読書を心配する声も届いています。地域の図書館、福祉団体への働きかけや自動公衆送信の実現など、新しい課題も出てきました。

早いもので2019年、電子図書普及事業部は10年目を迎えます。「すべての子どもたちに読書の喜び」を届けるために、これからも小さな一歩を刻んでまいります。

2019年 3月

公益財団法人伊藤忠記念財団